

# めんたるねっと

VOL.22-4

No. 88

|            |   |              |
|------------|---|--------------|
| よこはま型若者自立塾 | キャリアデザインスクールからの報告<br>～ 3年間のまとめとしてOG・OB会を開催 ～                                    | 2            |
| 被災地より      | 無意識の眼差し ～「大丈夫？」の言葉に覚えた違和感   | 5            |
| SSTの現場から   | 学校教育現場での具体的な事例 ～実践報告の場面やテーマから   | 6            |
| 活動報告       | プレジョブスクール／ 駄菓子屋カフェ／子どもとみんなの食堂<br>Irodori / ボラフェス参加、江ノ島遠足、そして新生活へ<br>事務局より／予定・報告 | 8<br>9<br>10 |



満開になった桜と Irodori くん

## キャリアデザインスクール（CDS）からの報告

～3年間のまとめとしてOB・OG会を開催～

この3月31日をもってCDSの事業は終了することとなりました（横浜市との契約終了）。そこで、3年間（利用者は6か月の利用期限の中で参加）で利用し卒業した方々に集まっていただくOB会を開催しました。OB会の1部・2部の様子そして終了に向けてのスタッフのコメントをお伝えします。

3月23日のOB会当日は3部構成とし、1部（11時開始）は利用者だけで近況報告をしていただき、食事をしながらの会。2部（13時開始）は様々な形でお世話になった外部の方々に参加していただき、OBの数人の方々にCDSを利用しての感想等の発表をきく、そしてまた外部の方々にもコメントをいただく交流会形式。3部（14時半開始）は横浜市関係者の方々にスタッフから報告をする会としました。

当日は第1部に利用者OB21名（現役1名含）、第2部は利用者OB21名（現役1名含）、外部関係者12名、第3部は市関係者3名の参加をいただきました。延べ総数は57名でした。それに第1部から第3部までスタッフ7名が加わっています。時間になると次々に参加者が集まり、「お久しぶりです」「元気そうね」などのやりとりが聞こえていました。司会は、スタッフの渡部氏（育休の中を駆けつけてくれました）です。

第1部は最初に、1期生の利用者から順番に近況報告をしました。「アルバイトをしている」「就労Bに4回通っていて少しずつ負荷をかけ週5日通えるようになった」、「就労移行に通って就労をめざしている」「教習所に通っている」「大学に入学しました」などが報告されました。その中であって「自分に合うところを探しているところですよ」という報告に私は密かに感動していました。周りと比べることなく今のありのままの自分を他人の前で堂々と言える強さ、CDSに入ったばかりの頃の彼からは想像できない言葉でした。大きな成長をみたのです。また、会場内では2期生と3期生が中野晃太監督の指導の下制作した動画も披露されました。



絵しりとりの様子

そして第1部の最後に、1期生チーム・2期生チーム・3期生チームで「絵しりとりゲーム」の対抗戦も行われました。皆は最初にちょっと困惑し、その後ではぐれました。

第2部では、外部の関係者の方々（スポーツ協会・森林セラピーセラピスト・笹寿会・農業ボランティア・横浜市関係者）が参加されました。まずは数人の利用者の方にインタビュー形式で、よく参加していたプログラムや印象に残っているプログラムについて質問し、「団地ボラは楽しかった」とか「農業でたくさんの種類を収穫できてよかった」、森林セラピーで「下界にもどるのがいやになった」、などの言葉がありました。その後、さらにOBの4人の方から、さらにCDSに通うようになったきっかけ・実際参加してみてよかったプログラム・印象に残ったこと等を発表していただきました。

「スポーツの参加で少しずつ体力がついた。いろいろな人と話せるようになったことがよかった」

「宿泊に参加しないと行ったら『みんなで行かないと意味ないよ』と熱い思いを受けて参加し、とても楽しかった。何度も何度も面接を受けて落ちたけれど今は仕事をしている。今でも仲間は私の支えです」

「家にいて全然動けていなかった。スポーツに参加して体を動かし他の人と声を掛け合ってやれるのが楽しかった。「ストレス対処/コミュニケーション」で



は他の人と意見を出し合って生きていくのに必要なことをも学べた。CDSに参加して、勇気をもらった」

「長く引きこもっていたので、肉体的にも、精神的にも弱かったけど、他の人たちと交流していくうちに体力や気力がついてきた。社協・清掃・団地のボランティアにたくさん参加し、団地の方たちにはやさしくしてもらった。今は上をむいているし、自分のポジティブな面もわかった」ー。それぞれがその人らしさがよくでていた発表でした。



調理体験



森林セラピー

外部の関係者からも、自分の体験に照らし、初めて取り組む仕事にあった不安や葛藤が体験を重ねる中で少しずつやれるという自信につながり「みんなと一緒にです」というむき出しの姿をそのまま言うてくださったり…、「素敵なお会に招いていただき本当にありがとうございました」と感謝の言葉を言われたり…

終了後も、何となく別れがたい雰囲気が流れ、数人ずつでカラオケに行く人などもあり、CDSでのつながりが感じられた終わり方でした。

### スタッフからの一言

**渡部恵梨子**：3年は大変でとても贅沢な時間でした。私が大変だと感じたことは、6カ月でメンバーさんと信頼し合える関係を作り、次のステップ（進路先）と一緒に考えていくこと。また、同時にアセスメントして、それぞれに次のステップの見通しを立てることでした。ですが、たくさんの人に関わってもらい、メンバーさんの小さな声を聞き逃さず、それをみんなで考えられことで乗り越えられたと思っています。個性も

経験も豊かな担当スタッフ（事務がとても苦手な私なので、事務担当者も重要）、スーパーバイザー、森林セラピスト、スポーツインストラクター、動画の監督、団地の地域の方々、農業ボランティア、青少年相談センター、ユースプラザ、若者、サポートステーションなどなど。

さらに、メンバーさん同士のやりとり（グループの力）にもかなり助けられました。私たちスタッフの声なんかより何十倍の効果がありました。この3年間で出会ったメンバーさん一人ひとりと本気で向き合い、共に悩めた事は大変でしたが、ぜいたくだったと今なら思えます。本当にありがとうございました。最後に…体調不良などの理由で「期間が長ければ何かできたんじゃないか」と思うこともたくさんあり、その時は信頼する機関に引き継いでもらいました。今でも顔が浮かびます。その人たちが少しずつ希望に近づいていることを願っています。



動画制作の一コマ



農作業体験

**相原俊介**：長かったような、短かったような3年間で過ぎた。『去る者は日々に疎し』と言う。彼ら彼女らの、この先の人生において、この期間の、この機関を、無理に覚えていて欲しいとは思わないが、それぞれの、この大切な時間に、この6カ月が、参加者に何かしらの意味や意義があつて欲しいと切に願う。ひきこもりと一言でいっても、その経歴や背景、個性独自性は本当にそれぞれだった。途中卒業の方も居たが、無論全員ではないが、極端に言えば、それまで外出も必要最低限、話すのも家族のみといったような日々を過ごされてきた方々が、6カ月もの間、よく上大岡まで通ってプログラムに参加して頂いたと思う。今思えば、立场上講師的な立ち位置だったが、むしろ私自身が彼等彼女等に学ぶ場面や機会も多かったと感じている。いや、圧倒的にそちらの方が多かった。

最後に、最後の参加者の言葉が印象的だったので記載させて頂きたい。

「これまでの競争社会の価値観とは違う場所だったので、居心地が良かった」

この場を借りて、参加者含め、これまでご協力頂いた全ての皆様に感謝を申し上げたい、大袈裟ではあるが、誰一人欠けても今日のこの日は成立しなかったと思う。

誠にありがとうございました。

**山口奈保**：3年前は手探りのスタートでしたが、YMSNのスタッフやSVの先生方、ボランティアさんなど、たくさんの方々に支えていただき、学びながら続けて来ることができました。私は主に「キャリアデザイン」「働く準備講座」「ビジネスマナー」などのプログラムを担当させていただきました。「働きたいけれど自信がない、何ができるかわからない」と言っていた方が、ボランティアなど体験をふりかえり、自己理解（長所・短所、得意・不得意）、将来設計まで、ご自身の言葉で語る姿にいつも感動していました。

プログラム以外で印象的だったのは、メンバーさん同士の交流です。毎月入れ替わる仕組みの中で、先輩に温かく迎え入れられ、段々とグループで活動でき、「自分はここにいていいんだ」という気持ちを持つことが素敵だなと思います。メンバーさん達の力を借りながら、スタッフとしてこの場に関われたことに感謝しております。

**大倉よしの**：2024年4月から2年間、週3回担当しました。当法人で仕事をさせていただくのも初めてで、あまり経験のない若者支援、あるのは年を重ねたことによる「何とかかなるかな」という根拠のない考えのみ。こんな私でも職員にしてくれたのは、当法人のふとこの広さ、奥行の深さです。それはまさに、「まず来てみて！」と受け入れる当法人の支援の価値観と同じです。ご一緒させていただいた2年に心から感謝しています。私のこれまでの支援の価値観とはちがった支援を経験することができたことは、とても貴重でした。意見が違っても、小さなことでも話し合いを重ね、共有しながらすすめられました。利用者みなさん、スタッフみなさん、ありがとうございました。

**宮崎祥司**：2025年1月から1年3カ月、毎週火曜日にいろいろなプログラムを通して利用者さんと関わらせていただきました。私の好きなプログラムはくじらの館での清掃活動、社協での作業、豊かな自然の中での森林セラピー、ハイキングなどでした。これらの活動の中での利用者さんは、一言で表現するとすれば真面目でした。“ぼわん”とした生き方をしている私は、いつも大きな刺激をいただいていた。OB会では卒業生の体験を聞く機会があり、とても有意義な時間を過ごすことができました。頂いてばかりの1年3か月でしたが、貴重な体験をさせていただき、利用者さん、スタッフの皆さんに感謝します。

**森川充子**：私は2年間・週3日の関わりでした。若者支援に関しては経験もなく、何ができるか不安でした。ただ利用者の方々の様々な環境や家族関係が分かるにつれ、できることが少なくとも、自分は利用者の方にやさしや温かさを伝えたいと思い関わってきました。ほんの少しの片りんでも形をかえてでも彼らの中に残ることがあったらよいなあと思っています。

CDS事業に様々な形でご協力くださった皆さま本当にありがとうございました。

(YMSN 森川充子)

## 無意識の眼差し

### ～「大丈夫？」の言葉に覚えた違和感～

片柳 光昭（ふくしま心のケアセンター避難地域支援センター長）

先日、久しぶりに会った知人に近況を伝える場面があった。勤務先が宮城から福島に移り、2年目を迎えたことを伝えたところ、「そうでしたか。ところで大丈夫ですか？放射能とか…」と言われ、私のなかで時間がほんの一瞬、止まった。そしてその一瞬の時間に目まぐるしいほどの言葉が頭の中を駆け巡っていた。

「大丈夫ってどういう意味の？」「私がつてこと？身体のこと？それとも違う意味で言っている？被害にあっていないかどうかの大丈夫？あるいは福島の被害が続いていないかどうかの大丈夫？」「放射能って、もう16年目を迎えたのに…」。

そして何もなかったように「はい、大丈夫です」と、誰の、何に関する大丈夫なのかすら分からないままに返答し、会話が終わった。

実のところ、福島に勤務先を移すことを決めてから、何度か「大丈夫？」と問われたことがあった。そしてその度に違和感を覚え、その度に一瞬、時間が止まっていた。問われたことが「今、福島はどんな状況なの？」であれば違和感は何も覚えず、時間も流れていたと思う。些細なことかもしれないがその正体は「大丈夫？」という言葉にあることに辿り着いた。

おそらく、訪ねた側にはそこまで深い意味はなく、ただ聞いてみたかった、ただそんなふうにしたから、といったニュアンスだろうと察する。だが、受け取ったものはそこに留まらなかった。何かの特別視のような、遠巻きに眺められているような、あるいは覗き見されているような、そのような感覚を受け取った。誤解のないように記すが、実際にそのように問うてきた方々を責めるつもりも非難するつもりも毛頭ない。むしろこれだけ年数が経過しているなかでも関心を持ってくださっていることには深い感謝の気持ちがある。さらに言えば、私が現在の仕事先に就いていなければ、私自身がそのように尋ねていたと思う。そこま

で深く考えることなく「大丈夫なのかな？」と。私がここで伝えたいことは、その言葉を受け取った時、伝えた側の何百倍もの見えない文脈や眼差しも一緒に受け取ってしまうという事実である。

わずか1年ではあるがこの地に携わってきた私ですらこのように感じるのであれば、東日本大震災当時に福島に住んでいた方々、福島出身の方々、家族や大切な友人が福島と繋がりのある方々、そして現在この地域で生活をされている方々は、この15年間、どのような思いで他者からの「大丈夫？」を聞き、どう答えてきたのだろうか。そして、その答えを通じて福島はどのように映ったのだろうか。

福島に向けられる無意識の眼差しは、話し手の口から吐かれる無意識に選択された言葉によって表現される。そして受け手は、それを受け取って初めてその眼差しがどういうものかを知ることになる。知りたいことを尋ねて何が悪いのか？と思われる方もいるかもしれない。決して悪くはない。悪くはないが、その前提には話し手自身も気づかないまま育ててしまった見方が含まれている可能性に目を向けるべきではないだろうか。なぜなら、ニュートラルさを失った視界には、映るものも映らなくなってしまうからである。

東日本大震災から16年目の春、福島へのあなたの眼差しはどのようなものですか。

## 学校教育現場での具体的な事例

### ～実践報告の場面やテーマから～

小山徹平(公認心理師、臨床心理士/YMSN理事)

先日、高校にて、SSTのセッションを実施いたしましたので、その実践報告をさせていただきます。

今回、特別授業の枠組みで2学年の各クラスにおいて、各2回のセッションを実践いたしました。私は外部講師として各授業を担当し、セッションのリーダーをいたしました。各セッションは、2か月ほど間隔を空けて行いましたが、その間に担任の先生の方で1回目のセッションの振り返りと宿題の実施を確認する内容で、授業が行われました。

今回扱ったテーマ/目標ですが、生徒自身のニーズに沿ったものにするにかなり心を砕きました。というのも、学校教育現場でSSTを行う際にはその構造に引っ張られて、SST参加者（ここでは生徒に当たります）のニーズよりも、学校側や先生側の要望や方針に寄りやすくなってしまいうことが起きやすいからです。

学校教育現場でSSTを行う際に気をつけないといけないことの一つに、その構造があります。「先生—生徒」「教える人—教わる人」「指導・評価する人—される人」といった、いわば非対称な関係性や枠組みの中でSSTが実施されるという点です。無論SSTは、その理念から言っても「指導」ではありませんし、対人関係はこうあるべきといった「教育」、ひいては「しつけ」であってはいけないと考えます。SSTは、参加者の夢や希望、ニーズに従ったものをテーマとして扱い、エンパワーメントしながら未来志向で行われるものでなければなりません。

ゆえに今回、テーマ/目標決めでは、学校の先生のアセスメント結果をもとに（SSTの三本柱の1本目である「アセスメント」も本来ならリーダー自身が担当すべきでしたが、今回はそれが難しく担当の先生にご協力をお願いしました）、生徒のリアルなニーズを

扱うことを心掛けました。その結果、ちょうどその学校では文化祭が近いこともあり、生徒のニーズとして「文化祭のクラスの出し物をするにあたって、クラス内でのコミュニケーションをよりスムーズに行いたい」という思いは共通してあるだろうということになり、これを今回のSSTのテーマ/目標として掲げることとしました。さらに客観的なアセスメントとして、自分の意見を強みとして言える生徒は多いが、共感や相手の立場になって考える事は苦手な生徒が多いという報告も先生から受けました。

この報告を「受信—処理—送信」の枠組みで捉え直すと、おそらく「受信」「処理」の部分であろうと思われました。よって「受信」「処理」のブラッシュアップが課題としては適切ではないかということになり、今回のSSTセッションでは「相手の様子をよく見て、耳を傾けるスキル」を共通課題として扱うこととなりました。

実際のセッションの大枠は以下の枠組みで行われ、1回目はベラックらのステップバイステップ方式をベースに、2回目はリバーマンらによるモデルをベースに行われました。

#### SSTセッション1回目

- ① ウォーミングアップ：感情とニーズのモニタリング（ペアになり、最近あった楽しい話をし、感情とニーズの一覧から自分に合ったものを一つずつ選び相手に伝える）
- ② 導入：目的・方法・ルールの説明、スキルを効果的に使うポイント（ポスター）の解説/Goサイン・No-Goサインの解説
- ③ スキルの解説：「相手の様子をよく見て、耳を傾けるスキル」

ステップ1 相手の方をよく見る（相手の表情等を観察し、気持ちを推測する）。

ステップ2 頷きながら相槌を打ち、最後まで相手の話を聞く。

ステップ3 相手の言った言葉を繰り返す、復唱する。

④ 弁別モデリング：ステップ2と3をせず、自分の話をしてしまうモデル／各ステップを行うモデル

⑤ ロールプレイ：先生と生徒の3人一組になり、交代しながら、「雑談：最近あった楽しい話」や「悩み相談の場面」で実施

⑥ 宿題設定：文化祭に向けたクラスの出し物の話し合いなどで、スキルを使ってみる、学校外のコミュニケーション場面でも応用してみる

④ 宿題報告：セッション間で行われた授業のシートに書かれた、宿題報告の内容へのフィードバック。  
※ステップ3の復唱が難しかったという報告が多くありました

⑤ ロールプレイ：宿題で報告された場面（家族と、バイト先で、クラスメイトと）を扱い、場（クラス全体）からの正のフィードバックの後、修正のフィードバック、モデリング、2度目のロールプレイを実施。※ステップ3を中心に、修正のフィードバックやモデルが示されました

⑥ ペアによるロールプレイ：ステップ3を中心に、ペアでスキルの練習を実施

⑦ クロージング

セッション終了後は、S S Tの3本目の柱でもある「般化促進」として、学校の先生にその後の普段のかわりの中で各ステップの意識づけと声掛けを行って頂くようお願いをしました。

以上が報告になります。何かのご参考になれば幸いです。



## S S Tセッション2回目

① ウォーミングアップ：リラクゼーション（筋弛緩法と呼吸法）

② 導入：目的・方法・ルールの説明、前セッションの振り返り等

③ 弁別モデル 自分の話にになってしまうモデル／質問攻めにになってしまうモデル／各ステップを行うモデル（各モデル相手役がどのように感じたかの意見交換もあわせて実施）



## 書籍のご案内

日本更生保護協会より著書「保護司のための面接スキルアップ -言葉で「生きる」を支える-」が発売されました。イラストと共に面談のエッセンスをまとめました。保護司の方々をはじめ、あらゆる支援者に役立つ内容になっています。

お買い求めは、**日本更生保護協会**のホームページからどうぞ！

<https://www.kouseihogo-net.jp/hogokyokai/books/index/22>

## プレジョブ スクール

キャリアデザインスクールよこはまが3月末で終了しました。卒業後の場所と

してプレジョブを利用する方が何人かいます。キャリアデザインでの体験を経て、アルバイトやボランティアをしながら利用する方や自分に合った次の場所選びを考えたい方が参加します。いま在籍している方々も6月で一旦終了になります。

この一年は、絵本を題材にした手作りの紙芝居を

地域ケアプラザのデイサービスで披露させてもらったり、近所の団地で移動販売のボランティアをしたり、庭の農作業、社会福祉協議会でのチョコボラ(ちょっとした作業をしています)をする中で、多くの大人の方に出会い、成長させてもらいました。

4月になり、それぞれが学習支援、外国につながる子ども支援、高齢者へのボランティア、という新たな場所も見つけています。

9月以降、新たなプレジョブの仲間が集まってくるのを楽しみにしているところです。

## 駄菓子屋カエ



この3月、中学を卒業する生徒があいさつに来てくれました。「卒業式が終わったら、みんなで集まってだらだらしたいから、日にち開けて！ 高校生になったらバラバラになっちゃうから最後に集まりたいんだ」と…

うれしい突然のリクエストに応じて設定した日に来たメンバーは、よくケンカしていた子、公園で足をすりむいて泣きながらやってきた子、駄菓子屋の看板をせっせと作った営業マンのような子、時間になってもなかなか帰ってくれなかった子、成長したなあ…と、感慨に浸っていたのですが、本人たちは、「駄菓子屋、よかったよなあ…」「俺たちが最初のお客さんだったんだよね」「よく来てたよなあ…」などど、だだ、だらだらと話をして盛り上がっていました。駄菓子屋らしいですね。

## 子どもとみんなの食堂

ここ最近、子どもたちの集まってくる人数が少なくなりました。様々な場所で「子ども食堂」が開催されていることもありますが、子どもたちの塾、習い事が丁度この食堂の時間にあたっていることもあるようです。

一方で、毎回楽しみにしている子も多く、「当日のイベントは〇〇にしようよ」とか、「今度、軽音楽部はいつ来るの?」とか、企画も考えてくれ、招かれる人から招く人へと気持ちが変わっている姿を見せられています。

改めて、子ども食堂の意義を感じるこの頃です。これからも大人も子どもも一緒に成長できるこの場を続けていきたいですね。

(YMSN 鈴木弘美)

## Irodori



小田急片瀬江ノ島駅で

2026年、新しい年が始まりました。  
新しく入ってきたメンバーもすっかりなじみ、より一層楽しい場所になってきたなあと感じています。

今年は2月にボランティアフェスティバルが横浜で開催され、Irodori も参加しました。  
ボランティアフェスティバルは様々なNPO 団体などが活動紹介をしたり、その団体の活動にちなんだ体験遊びをするお祭りで、Irodori も含めた横浜メンタルサービスネットワークも参加しました。

活動紹介の他に Irodori メンバーや所縁のある方たちの手作り商品などを売ったりしました。

メンバーが作った商品の中には本当に手作りの!? と思うほど完成度の高いミニカバンや、可愛い絵の描いたポストカードなど、とても素敵な商品がたくさんあり、色々な方に手に取って見てもらったり買ってもらったりしました。

商品を売る時はメンバーも一緒に会計受付をしたり、フェスティバル内で行われていた合同のスタンプラリーの案内をしたりと、とても頼もしかったです。

仕事をするだけではなく、ご家族の方と一緒に様々な団体を見て回ったり、スタンプラリーをしたり体験遊びをしたりと、とても楽しんでくれた様子で嬉しかったです。

Irodori だけではなく、色々な団体、活動、出来事、多様性など「世界には沢山の人が居て、こんな事があるんだ」という事を少しでも知ってもらえたら、それはとても素晴らしい体験になったのではないかと思います。

3月には卒業を記念した遠足のレクリエーションがありました。今年で高校や中学を卒業した Irodori メンバーや現役生たち、Irodori 卒業生たちと一緒に江

ノ島に遠足に行きました。

当日はあいにくの雨で、予定していた色々なルートに行くのが難しく、急遽新江ノ島水族館に行くことに。水族館の中はたくさん人が居て、魚を見るのも進むのも一苦労…。それでも大きな水槽やクラゲショーは迫力がありみんなで楽しむことができました。

水族館を出てみんなでお昼ご飯を食べたら少し天気が良くなり、歩きやすくなったので午後はみんなで江ノ島散策。予定変更などもあったため、観光地を見るというよりは島内をみんなで一緒に散歩という感じに。

島内を半周くらい歩くのでかなり疲れはするのですが、一緒に様々なところを見ながら歩いて、「ここからだ海がとても綺麗に見えるね」「泳いでいる人がすごく小さく見える」「前の人歩くの早いな！」など言いながら、或いは最近の話や Irodori の思い出など色々な話を話していると、あっという間に時間が過ぎていきました。散歩のようなものだとしても、このメンバーで色んな話をしながら歩くのはそれだけで楽しいなあと思いました。

4月になり新しく入学や進学する人がいて、新しい道に進む人がいて、新しい出会いがあったり、中々会えなくなるメンバーや人も増えたりと… 楽しさも寂しさも増えていく季節ですが、「あんな事があったよ」「こんな事があったよ」「今日は何もなかったよ」とまた何かを話しに来たり、暇な時は遊びに来たり、誰がどこに行こうともいつもと変わらない居場所でありたいと思いました。 (YMSN 上曾晴斗)

## ご寄付のお願いと報告

- ・会費をいただいた方(2026. 1.21~4.20)
    - ・鈴木典子、小山徹平、羽田舞子（以上、敬称略）
  - ・寄付をいただいた方（2026. 1.21~4.20）
    - ・工藤玲子、菱倉昌二、(税)エクラコンサルティング、加藤久博、子ども食堂参加者（以上、敬称略）
- ・ありがとうございます
- ・寄付をお願いいたします。
    - ・認定NPO法人なので、寄付をいただくと(所得税40%+住民税10%)最大50%の減税になります。今後ともご協力よろしくをお願いいたします。

## 当事者のためのグループ活動

- ・就労フォローアップミーティング
  - ・年1回、OB会の開催
- ・就労者SST
  - ・日程 毎月 第1土曜日 時間 pm. 1:00~2:30 場所 YMSN
- ・当事者グループ活動

## 駄菓子屋カフェIrodoriイベント

### 「子どもとみんなの食堂」のご案内

- ・日程 毎月第2土曜日 1月・8月はお休みです
- ・会場 駄菓子屋カフェIrodori デッキスペース
- ・「子どもとみんなの食堂」 15時~18時 どなたでも(事前予約)

正会員：5,000円（個人） 賛助会員：12,000円（団体）  
（正会員・賛助会員にはYMSN情報誌を無料配付）

振込先：郵便振替口座 00250-6-71607  
横浜メンタルサービスネットワーク

会費を銀行・コンビニ ATM やネットから振り込む場合の入力方法  
をご案内します。

振り込み料は432円かかりますが、郵便局に行かなくても良いので  
楽は楽です。

（金融機関名）ゆうちょ銀行（店名）〇二九  
（種別）当座（口座番号）71607  
（名義）ヨコハマメンタルサービスネットワーク

季刊 YMSN情報誌 Vol. 22 No. 4  
YMSN 第88号 2026年4月25日発行

年間購読料1,000円（年4回発行）1冊頒価300円

発行：NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク

理事長 鈴木弘美 編集代表 森川充子

〒234-0052 横浜市港南区笹下 1-7-6

TEL 045-841-2179

FAX 045-841-2189

<http://forest-1.com/ymsn/>

e-mail : [ymsn@forest-1.com](mailto:ymsn@forest-1.com)